

モデル事業名	丹後七姫小路による旧花街の活性化事業
活動団体名	みやづ新浜まちづくり組合
ホームページ	
担当者名	担当者氏名 土井 和也
連絡先	電話番号、0772-22-3400 E-メールアドレス doiroku-315@joy.ocn.ne.jp
活動地域	京都府宮津市・新浜

● 活動地域の概要

地域の状況

人口の現況と推移

	昭和30年	昭和55年	平成17年	平成20年(12月末)	
人口	36,200人	28,881人	21,512人	21,175人	↘
高齢化率	7.5%	15.0%	32.5%	33.2%	↗
就業の状況	—	15,595人	10,411人	—	↘

産業の状況

産業構造は平成13年時点サービス業(33%)卸小売業(33.5%)建設業(10.7%)製造業(10.5%)

平成18年時点サービス業(38%)卸小売業(29.4%)建設業(10.8%)製造業(9.8%)

基幹産業は観光業で、260万人の観光客を集めるが、観光消費単価の引き上げが課題である。

公共交通の状況

鉄道 「宮津駅」KTR 北近畿タンゴ鉄道(株) 新浜地区まで徒歩15分

特急列車上下20本(1日)普通列車上下88本(1日)運行 京都駅まで2時間

バス、汽船 丹後海陸交通(株) 路線バスを運行 船は宮津～天橋立(文殊)6本



【位置図】 ● 新浜地区



新浜の現況と空き家



● 活動地域の課題

京都府北部の丹後地域は、天橋立などの景観と松葉ガニ料理により、年間580万人の観光客を集める。宮津は、丹後半島観光の拠点であるが、年々人口を減らし、少子高齢化の進展により活力を失いつつある。

数年後の京都縦貫自動車道全線開通によるアクセス改善効果により、京都の奥座敷としての宮津の効用が高まることと予測され、丹後の歴史・文化を求める旅の玄関口としての需要増も見込まれる。

宮津の観光産業の課題は“天橋立股覗き”だけで移動する等、滞在時間が短いことである。結果、観光客が一日当たり消費する観光消費単価が低くなるため、新たな観光メニューの提供が必要となっている。

この課題に対応するため、かつて宮津で繁栄した花街「新浜文化」の観光資源化を試み、花街経営で培われてきた「おもてなしの心」で、新しいニーズの受け皿として位置付け、新浜文化を体感できる場として新浜の再生を進める。

● 活動の内容

・平成20年度

① 空き店舗を利用したモデル館の運営

花街の風情を残した空き家をモデル館と位置付け、活動の拠点施設として運営。

② 人材育成(若女将、伝統楽器奏者)事業の実施

観光客を迎える「おもてなしの心」を養成するための講座や、伝統楽器奏者を養成するための三味線講座、小太鼓講座を開催。

③ 集客事業の実施

花街文化の演出空間をつくることで、地域住民と外来客との交流の場を創出するため、集客イベントや空き店舗・空きガレージを利用した特産品等を販売するマーケットを実施。

④ キャラクター・シンボル商品開発

丹後地方にゆかりのある7人の女性「丹後七姫（安寿姫・細川ガラシャ・間人皇后・羽衣天女・小野小町・乙姫・静御前）」を特産物のブランド名として活用を図っていくため、キャラクターや新たな商品を開発。

・平成21年度

- ① 伝統文化の継承及び集客イベントの実施
- ② 七姫商品の開発・選定及び販売に向けた丹後広域における連携活動の実施
- ③ 新浜アクセス計画の研究と空き家状況把握調査の実施

● 活動の成果

・平成20年度

集客事業の実施により、地元住民の意識の変化がみられた。これまで地元では、来客が減っても集客への取り組み意識が弱かったが、イベントの実施により地域一体となった協力体制を生み出すことに成果をあげた。

人材育成事業では、宮津の歴史や文化を観光客に紹介できる人の養成のための講座を実施した結果、これまで地元住民が見過ごしてきた地元の魅力を再発見することができた。また、伝統楽器奏者の養成では、楽器奏者としての研修だけでなく、新浜の歴史や魅力を知る新たな人のつながりが生まれるとともに、受講生が文化交流の担い手として育ちつつある。

以上のことから、地域の多様な主体との協働により、丹後文化を集めて観光資源化し、地元の自立に繋がる活動のための人的ネットワークと住民のやる気が生まれ、新たなコミュニティの創生に有効であった。

□おもてなし講座の開催（10/12・11/12・11/26）

参加者 170名

□伝統楽器奏者養成講座の開催

- ・三味線講座 延べ9回 参加者27名
- ・小太鼓講座 延べ11回 参加者45名

□集客イベントの開催

- ・太夫道中、ナイトバザール等の実施 来場者 約1,100名
- ・花街ピント祭りの実施 来場者 約800名
（同日、宮津ならではの食と物産の祭典「楽食楽宴」の実施（共催事業））



おもてなし講座



伝統楽器習得講座

● 平成21年度

① 伝統文化習得講座（唄・踊り、三味線、小太鼓）を新浜地区内の建物を借用し開催。

○ 講座実施期間 10月上旬～翌年2月（毎月第1～3土、日、月曜日） 講師3名 受講者 29名

② 伝統文化映像記録の作成

新浜地区の花街文化承継のため、元芸者による伝統文化（唄、踊り、三味線、小太鼓）の実演や新浜地区の歴史的な事柄や当時の話題などの懇談を記録する。

○ 映像記録撮影期間 9月下旬～2月

* 第1回映像記録撮影日 9月23日

○ 撮影場所 市内の旅館

○ 撮影者 宮津メディアセンタースタッフ

○ 協力者 立命館大学/京都府立大学

③ 地元高等学校での伝統文化習得講座の開催（2月予定）

④ 空き家状況調査の実施（2月予定）

⑤ 伝統文化習得発表会及び体験実習会の開催（2～3月予定）



（宮津踊り稽古風景）



（映像記録撮影）

● 今後の課題及び展望

・課題

- 活動を継続していくための拠点場所の整備（地区内の空き家活用）
- 高齢者の指導による若い世代への花街文化（おもてなしの心、唄、踊り、三味線、小太鼓）の伝承と普及
- 地区内の空き家、空地の状況調査と新浜地区へのアクセスの推進と提案。
- 丹後の歴史・文化を求める旅行者等へのPR及び定住を促進する空き家の活用と情報発信。

・展望

現在、新浜地区内では、本事業と並行して、風情ある景観を保全していく取り組みや、まちなか歩きを誘導する集客事業などが展開されており、かつて花街として繁栄した情緒ある新浜の再生に向けて、地域の気運が徐々に醸成されてきている。今後においても、これらの取り組みとの連携を一層強化し、丹後の玄関口として、花街文化の再生による新たな魅力発信とコミュニティの創生に取り組む。